

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	りんくききょう		
○保護者評価実施期間	令和 7年 2月 1日		～ 令和 7年 2月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11名	(回答者数) 11名
○従業者評価実施期間	令和 7年 2月 1日		～ 令和 7年 2月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数) 4名
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7年 2月 28日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・多様な体験・社会見学、遊びや余暇活動等の機会の提供	・子どもが主体的に参画できるように、職員目線で決めるのではなく、子どもと共に検討、決定し取り組み、興味ややってみたいことを見つける機会につなげています。	・地域社会での行事等への参加の機会を増やすと共に、子どもの特性を社会にも理解を促す活動への取組。 ・活動終了後には、子ども達と感想を共有し次の活動に取り入れる。
2	・活動プログラムの立案について、子どもの意見を聴取し組み立てている。	・一人一人の子どもの状況に応じて、意見を表出しやすい環境に配慮しながら、集団・小集団・個別等により聴取している。 ・チームマネジメント活動の取組。	・ライフステージが進むにつれて想定される、日常生活動作や社会生活が円滑に営めるようになるための機会の提供。公共の施設(銭湯や食堂等)や乗物等(バス、JR等)の利用方法の習得に向けた取組やピアリーダー活動の取組。
3			

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・職員の人数	・個別支援や小集団での活動を充実させるために、職員を増員し、より質の高い支援につながると考える。	・ハローワークへ求人申込を行っていますが、採用に至っていません。今は集団活動を工夫しながら、職員のスキルアップや連携強化をして支援の幅を広げていく。
2	・事業所の発達支援室の数や、全体的な面積が足りない。	・個別対応スペースやリラックススペース等の他者からの視界や遮音できる空間が足りず、活動の選択肢が限られていることが課題と考える。	・パーテーションやカーテン等を使用し、他者からの視線を回避できるようにしている。
3			